

七段飾り

【七段目】

- ① 男雛(おひな)
- ② 女雛(めひな)
- ③ 親王台(しんのうだい)
- ④ 屏風(びんぶ)
- ⑤ 雪洞(ゆきぼり)
- ⑥ 三方(さんぽう)

【六段目】

- ⑦ 立官女(加えの鏡子)
(たちかんじょ)(くわえのきょうし)
- ⑧ 座り官女(すわりかんじょ)
- ⑨ 立官女(長柄の鏡子)
(たちかんじょ)(ながえのきょうし)
- ⑩ 官女一人台(かんじょひとりだい)
- ⑪ 高杯(たかつき)

【五段目】

- ⑫ 太鼓(たいこ)
- ⑬ 大皮(おおかわ)
- ⑭ 小鼓(こつづみ)
- ⑮ 笛(ふえ)
- ⑯ 扇(あふぎ)
- ⑰ 五人囃子一人台
(ごにんばやしひとりだい)

【四段目】

- ⑱ 隨身若(ずいしんわか)
- ⑲ 隨身老人(ずいしんろうじん)
- ⑳ 隨身一人台
(ずいしんひとりだい)
- ㉑ 菱台(ひしだい)
- ㉒ 御膳(おぜん)



【三段目】

- ㉓ 仕丁(盛り顔)
(ししょう)(せりかほ)
- ㉔ 仕丁(泣き顔)
(ししょう)(なきかほ)
- ㉕ 仕丁(笑い顔)
(ししょう)(わらいかほ)
- ㉖ 仕丁一人台
(ししょうひとりだい)
- ㉗ 橘(たちばな)
- ㉘ 桜(さくら)

【二段目】

- ㉙ 箆筒(たんず)
- ㉚ 鉄箱(上)・長持(下)
(てつばこ)(ながもち)
- ㉛ 鏡台(きょうだい)
- ㉜ 針箱(はりばこ)
- ㉝ 火鉢(ひばち)
- ㉞ 衣裳袋(いしょうぶくろ)
- ㉟ 茶道具(ちやどうぐ)

【一段目】

- ㊱ 御駕籠(おかこ)
- ㊲ 重箱(じゅうばこ)
- ㊳ 御所車(ごしよぐるま)
- ㊴ 毛せん(赤い段布)
(もうせん)
- ㊵ 飾り台

【飾り順】 ㊱・㊲・㊳・㊴・㊵・④・③・①・②・⑤・⑥・⑩・⑦・⑧・⑨・⑪・⑱・⑲・⑳・㉑・㉒・㉓・㉔・㉕・㉖・㉗・㉘・㉙・㉚・㉛・㉜・㉝・㉞・㉟・㊱・㊲・㊳・㊴・㊵

※⑩・⑱・㉑・㉒が付かないタイプもあります。
 ※㉓が白梅、㉔が紅梅を飾るタイプもあります。
 ※㉞の衣裳袋の付かないタイプもあります。
 ※㊴は毛せんを掛ける前に段のねじれが無いかをお確かめ下さい。
 ひな段と毛せんの中心を合わせ、下から上へたるみをとりながら、ピンで止めます。
 ひな段の左右に毛せんが余るようでしたら、裏側へ折り込んでください。

男雛と女雛、左右どちらの並びが正しいの？



京風の飾り方(向かって左に女雛、右に男雛)

結婚式もそうですが、お嬢さまも向って左に男雛、右に女雛と決まっています。ところが逆なのです。日本の礼法では向って右が上座だったので、雛人形も男雛が右でした。俗に京雛と呼ばれ、雛人形のお内裏様は天皇・皇后の姿を模しています。この左右が入れ違ったのは昭和の始めでした。昭和天皇の即位式が紫宸殿で行われた時、欧米にならい向かっ

て左に天皇陛下、右に皇后陛下がお並びになったことから、当時の東京の人形組合がお嬢さまの左右を入れ替えて飾ることに決めたからです。ところが京都だけは、大正以前の京都御所の天皇の並び方を放実守に守っているため、向って右に男雛、左に女雛という飾り方をしています。いずれにしてもどちらの並びも正しいと言えますので、それぞれお好みの飾り方を楽しんでほしいです。